自己肯定感育成プログラム（鳴門教育大学の「予防教育プログラム」）

資料2－5

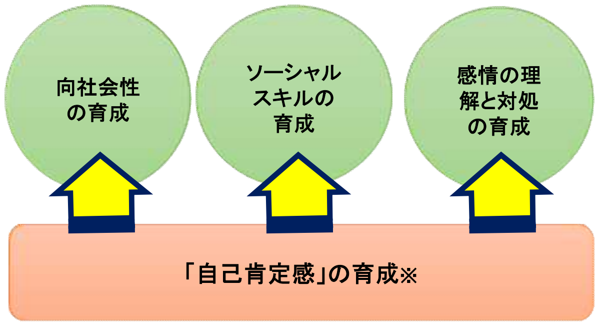
鳴門教育大学の『予防教育プログラム』

予防教育は、「自律性」と「対人関係性」の二つの育成を目指し、問題（いじめや暴力、不登校など）が無いうちから実施することで、将来的に起こりうる問題を未然に防止するという教育。

自律性にある「内からのやる気」を育成するためには、「気持ち」を動かすことが重要である。予防教育ではその気持ちを意図的に動かし、正の方向（うれしいや楽しいなど）に向かわせる活動をすることで、物事を前向きに捉えたり、自分を大切にし、人を思いやるという行動につないでいくことをねらいとしている。

例えば、集団で遊ぶ時、子どもたちの気持ち（心の底から楽しいなど）は動いており、その時に「こう考えたらよい、こう振る舞ったらよい」と考えたことが、心に刻まれ、一生の記憶となる。それを予防教育の授業でも同じ状態をつくり、後に同じ状況になった時においても、学習した通りの行動ができるというもの。

予防教育プログラムの4つの柱



予防教育プログラムには、左記の4つのプログラムがある。

「自己肯定感」の育成は、他の3つの教育の根幹にあり、「自己肯定感」が育っていることを土台に、他の3つの力の育成が可能となる。

「自己肯定感」の育成について

- 自分自身をかけがいのない存在として認めることができ、自分の興味・関心のあることへ前向きに取り組めるようになる。
- 自己肯定感の高まりは、子どもの心身の健全な発達のベースとなるため、他のプログラムのめあて達成にもつながる。学校においてはこの特性を育成することが第一に推奨される。

自分への自信、他者への信頼、内からのやる気などの育成

高知県の子どもたちが、いじめ問題に毅然と立ち向かうことができるために、いじめを絶対にしない気持ちの醸成や自分を大切にできる力の育成を図る。

プログラムの展開例

自己肯定感育成プログラム※（小学校５・６年　３時間目　指導案）

目標：自己の心理的欲求を満たすための現実的な目標と方法を考えることができる。

	授業の流れ	指導上の留意点
導入（5分）	**1．準備・注意** ・キャプテン、記録係の確認 ・話し合いのルールの確認 **2．授業の目的の確認** **3．導入アニメ・ストーリー視聴**	・「先生が話をしているときはしっかり聞く」「仲間の意見は否定しない」などの授業を円滑に進めるためのルールを確認させる。 アドベンチャー・ストーリーのアニメで、学習への動機付けや本時の活動への関心を持たせる内容になっている。
活動（32分）	**4．個人活動** ・個人シートに記入する。 **5．グループ活動** ・意見交換、目標記入シートに記入する。 **6．全体活動** ・オセロゲームを通して、グループの意見を発表する。	・「頑張りたいこと」と「具体的な方法」を記入させる。 ・グループで意見交換し、具体的な方法を考えるのが難しかったものをグループで１つ選び、目標記入シートに記入して教師に提出する。 ・教師は、提出された目標の中から１つ選んで掲示し、それを実現する具体的な方法を全員で考えるよう促す。 ・グループで考えた意見を付箋に書き、提出させる（意見を出したグループはオセロを獲得できる）。 ・教師は、出された各グループの意見を紹介し、オセロ盤にオセロを貼る（貼る場所はグループで決定）。 ・良かった意見についてすべて挙手をさせ、結果を発表する。 ・オセロの結果も発表する。
	・ゲーム性のある活動を取り入れることにより、子どもを授業に引きつけ、積極的に意見が出すことができるようになっている。 ・授業ごとに子ども達を引きつける様々な活動が導入されており、興味が移ろいやすい子どもにとっても飽きることなく活動に集中できる工夫がなされている。 ・ゲームの勝敗にとどまらず、採用されなかった子ども達が書いた意見もすべて、アイデアの宝箱に入れられ、自分たちの意見が周りに認められる仕掛けが設けられている。	
まとめ（8分）	**7．シェアリング** ・授業の感想を交換する。 **8．終結アニメ・ストーリー視聴** **9．授業の意義の確認**	子ども達の意見を全員で共有することで記憶の強化や異なった観点への気づきにつながる。 本時の整理や振り返りが行われる内容になっており、なおかつ次時への関心を持たせるストーリーにもなっている。 ・願いを実現する方法はたくさんあり、他の人とは比べない自分なりの方法があることを伝える。

授業を受けた子ども達の変容

- 保健室登校の子どもが教室に戻るようになった。
- 他の授業で発表が多くなった。
- グループ・ワークがしっかりできるようになった。
- 自分の気持ちを客観的に見れるようになった。
- 家庭で明るくなった。　　・いじめの発生率が下がった。

※鳴門教育大学では、『本当の「自己肯定感」の育成』と称している。